

座談会

「一遍上人の拓いた鉄輪温泉」



左から篠藤、飯沼学長、三浦祥子さん

出席者：三浦祥子さん、後藤美鈴さん、
安波治子さん、飯沼賢司学長
司 会：篠藤明德

飯沼賢司学長の講演に続いて、鉄輪温泉を盛り上げる3人の女性に登壇いただき、学長を囲んで座談会を開きました。三浦祥子さんは、鉄輪に住んでおられますが、大分県で長い間、雑誌の編集に携わり、また、ライターとして多くの本の執筆を行ってきました。後藤美鈴さんは、温泉旅館“入舟荘”の2代目女将として働く一方、一遍上人の足跡を探求し、普及するなど、鉄輪のまちおこしを担ってきました。安波治子さんは、鉄輪の旧家に生まれ、登録文化財である富士屋ギャラリー一也百を主宰しています。

篠藤：本日は鉄輪温泉を代表する3人の女性にご登壇いただき、一遍上人、鉄輪温泉についてざっくりお話ししていただきたいと思っています。

三浦：科学的に温泉を調査研究し、啓蒙するNPO法人・別府温泉地球博物館に関わっています。伊予の風土記に道後の湯は速水の湯を海底で



左から後藤美鈴さん、安波治子さん

引いたものであるという記述があるのは、大変不思議な気がしています。そこで、京都大学名誉教授の由佐先生に聞いてみますと、2万年前の氷河期、海面は現在よりも100メートル下がっていたというのです。つまり、豊後と伊予は陸つづきであったわけです。そんな背景があるのではないかと、思いをめぐらしています。

後藤：私は別府の生まれではありません。30数年前に結婚して大分の佐賀関から鉄輪に来ました。夫の実家が貸間“入舟荘”をしていました。鉄輪温泉では毎年9月に湯浴み祭りがあり、稚児行列がありますが、私の2人の子供も参加しました。はじめは、一遍上人に関して何も知りませんでした。しかし、鉄輪温泉にとって一遍上人がとても大切な人と分かり、一遍上人探求会を作って本を発行しました。その時に、飯沼学長など別府大学の先生のご協力をいただきました。また、紙芝居で一遍上人のことを伝える活動にも取り組んできました。湯治場としての鉄輪温泉にとって、一遍上人はとても大切な方です。

安波：湯治文化が色濃く残っているのが鉄輪温泉郷です。もともと泉源のあるところに家があって、家の一室を貸していたのが貸間でした。そこ

から、貸間が大きくなり、多くの客が泊まるようになりました。そこで、地獄釜の周りに人々が集い、交流する場ができてきたのです。

篠藤：東工大の教授が私のところに来ましたので、別府大学のキャンパスを案内しました。ここには4つの泉源があり8つの天然温泉の浴場があると説明したら、びっくりしていました。東工大にはノーベル賞受賞者がいますが、別府大学には天然温泉がある、と胸を張りました（笑）。外から別府温泉郷を見ると、びっくりするのですね。別府大学は、人文学でフランスを代表するモンペリエ大学と姉妹大学ですが、フランスの大学の先生方も鉄輪に泊まっているといいますね。

飯沼：先ほど三浦さんの言われた2万年前の話は、壮大ですね。別府の背後には、鶴見山、伽藍岳があり、別府はその麓にある温泉郷です。恵みの湯であると同時に、危険な存在でもあります。恵みと災害の中で人々は生きています。台風も同様に災害であると同時に、大量の水をもたらす自然の恵みでもあります。

先ほどのフランスの先生方の話ですが、大学としてはホテルも用意したんですが、鉄輪が良いと言うのですね。私も別府出身ではありません。初めて別府に来た時はびっくりしましたね。地面が暖かい、それにいたるところ湯気が出ている。別府の人には当たり前の光景なのでしょうが、そうした価値は外から来た人間が発見したのですね。

三浦：「温泉天国」と言う単行本がありますが、そこに作家・田辺聖子さんが書いていたものが載っていますので、持参しました。カモカのおっちゃん（田辺さんのご主人ですね）と一緒に鉄輪温泉に泊まった時のことです。100年も前の話です。田辺さんは、別府の印象を「街全体、ゆだっている感じ」と表現しています。見事な表現ですね。2000を越える源泉があると言う別府温泉郷。「作家が描いた鉄輪温泉」を集めると、楽しいだろうと思っています。

後藤：私が鉄輪にお嫁に来た頃、共同浴場は混浴でした。臨月の私が入っている時、近くのおじいちゃんが入っていてびっくりしました。私の主人が困ると言うとおじいちゃんは「わしは困らん」と。まあ、おおらかというか（笑）。

鉄輪温泉の様子もどんどん変わっていますが、温泉は何と言ってもストレスにいい。心も癒す場所ですね。時間がゆっくりと流れている。共同浴場があつての鉄輪温泉だと思います。100円払えば、誰でも入れます。



富士屋ギャラリー 一也百

安波：富士屋は明治32年に建てられました。私の家は代々旅館をしていましたが、現在、蒸湯の横に建っていたのが本館で、その新館として建てられたものです。私は、取り壊そうと思い、解体業者を呼んだのですが、壊せなかった。建物は様々な歴史を刻んでいるのですね。この貸間が密集する湯治場は、地獄めぐりのエリアとは違ったものです。人の記憶を留める意味があります。風情が残っているエリアですね。今、古い建物が壊されそうになると相談されます。「とりあえず、治子ちゃんに預けておこう」と（笑）。

お湯の中ではみんな平等という感覚がありますね。一遍上人の教えなのかな。NPO法人ベッププロジェクトが「混浴温泉世界」というモダンアートの大規模展覧会を連続して開催しましたが、その名づけ親である総合ディレクターの芹沢高志さんは、「混浴」と言っても鉄輪では全く驚かない。組合管理の共同浴場を行ったり来たりするので、家の中と外が曖昧。温泉では、性別、肌の色、全く関係ない、と言っています。

篠藤：別府大学駅の下にある上人ヶ浜は自然が残る唯一海浜ですね。そこに、一遍上人が上陸したと言いつたわれています。そこから鉄輪温泉に至



蒸湯跡地横の一遍上人像

る古い道の中ほどに別府大学は立地しているわけですが、その近くに鬼の岩屋古墳があります。その石室の赤色は、血の池地獄から取られたものと明らかにされています。一遍上人によって鎮められ、温泉郷となった鉄輪温泉。この道を「一遍上人の道」として現在顕彰しています。最後に、別府大学に期待されることを一言お願いします。

三浦：別府大学には泉源があり、温泉浴場もあるのですから、是非、温泉神社を建てたり、大学の中に銭湯を作って欲しいですね（笑）。

後藤：現在、世界の人にSNSなどで発信できます。是非、若い学生の力で情報発信をしていただきたいですね。

安波：ある調査によると、1ヶ月に1回から2回しか温泉に入らないというのですね。それも50%の人々が。別府大学では、毎日温泉に入る学生を育ててください。別府大学の学生が鉄輪まで歩いて来て、温泉に入って欲しいですね。

篠藤：飯沼先生は、この4月（2019年）に別府大学の学長に就任いたしました。また、11月には、別府“温泉”大学の学長にも就任され、「ダブル学長」になったわけです（笑）。ホームページを見ていただくと、飯沼学長が砂湯に入る動画が掲載されています。“体を張って”アピールしています。全国800近くの大学の学長で、ここまでののは飯沼学長だけです（笑）。最後に、学長一言お願いします。

飯沼：学内温泉の開放は、理事長も関心を持っていますね。別府“温泉”大学で、世界に打って出たいと思っています。また、鉄輪温泉から別府全体の活性化も願っています。これからも一緒に頑張りましょう。

座談会を終えて：「女性パワーによる活性化」

近年、鉄輪温泉は新聞、テレビなどでもよく取り上げられています。これも長年のまちづくり運動の成果だと思いますが、とりわけ、女性たちのパワーが素晴らしい。

今年度の温泉学概論の最終講義にご登壇いただいた菅野静さんもその一人です。「湯治ぐらし」というシェアハウスを3軒（予定を含め）展開しています。別府大学の学生も入居する予定と聞いています。また、湯治宿・柳家の女性社長の力も大きいですし、「ひろみや」さんの女将さんは、様々なスペースを利用し、月毎の異なった企画展を行ったり、溜まり場を提供しています。

蒸し湯を中心として、散策できるエリアに、こうした場所が点在している魅力は大きいですね。地獄巡りに代表されるエリアと全く異なった「湯治場」としてのエリアが、女性の力で現代的に蘇っています。湯布院とは全く違った、庶民的癒しの空間を作っています。踊り念仏を唱えた一遍上人が拓き、農閑期にコメ・野菜などを持ってきて自炊したお百姓さんたちが愛した鉄輪温泉が、ストレスの多い現代の人々をお暖かく包んでくれています。

ところで、飯沼学長も司会を担当した私も鉄輪に住んでいます。つまり、登壇した5人は鉄輪の地域住民です。互いによく知っていることもあり、くだけた雰囲気です座談会をすることができました。これも鉄輪温泉の力かな、と思いを強くしました。参加された皆さん、ありがとうございます。

（文責、篠藤）